

相談支援部会グループのまとめ

グループ	E グループ：児童		
メンバー	阿部・中田・春山・菅原・入江・那須・水谷・沼田・松島・細貝・川手・佐々木		
日 時	内容(事例検討、見学等)	日 時	内容(事例検討、見学等)
H29.6/7	今年度の活動方針	H29.8/28	アセスメント学習会
H29.11/1	高円寺北学童見学	H29.11/22	特別支援学級等との情報交換会
H29.11/29	堀之内南学童見学	H29.11/30	方南学童見学
H29.12/7	まあぶる高井戸見学	H29.12/20	カノン見学
H30.1/19	放課後等 d s 情報交換会	H30.2/8	事例検討とまとめ、来年度の方針
活動内容・検討内容			
<p><b>6月7日 第1回打ち合わせ</b>          〈今年度の活動方針〉          放課後等デイサービスや学童クラブの見学を継続し、事業所間の相違を認識する。・障害児童のアセスメントについて理解を深める。・学校との連携のあり方について模索する。</p> <p><b>8月28日(月)アセスメントの学習会 済美養護学校</b>          講師：グループメンバー松島氏と入江氏          太田ステージ、新版 K 式発達検査、田中ビネー知能検査V、WISC-IV等実際に検査器具をみながら各アセスメントの長短所について学んだ。</p> <p><b>11月1日 高円寺北学童クラブ</b>          重度重複障害児6名定員、2名在籍しているが医療的ケアはできない。1日1回はプログラムやおやつ等の時間等一般児童と一緒に過ごしている。おやつや夕方などに、一般学童と一緒に過ごすことがほぼ毎日あるために、互いに慣れている。それ以外に、1/Mほど、わくわくタイムという交流会をしている。</p> <p><b>11月22日 15時半～ 特別支援学級等の教員との情報交換会</b>          教育と福祉の連携の一環として、相談支援事業所と特別支援学級担任とで情報共有・意見交換をしながら課題を共有したり交流することで相互理解を深める機会とする。先生との交流の中で、互いに関係性が築けている所とそうでない所があった。問題があるケースの際も、家族と学校、家族と学童、デイとそれぞれが別個に行われていることについて相談の役割を感じた。垣根のない共有ノートがあるとよい。今後も定期的に交流を行えばとの発言もあり。(具体的には、H30年の夏に学校にて)</p> <p><b>11月29日 堀ノ内南学童クラブ (障害児在籍/6~7名)</b>          6つの班に分けて、それぞれに班長を決める。班長が班のメンバーを選んでいく。支援児がいない班もひとつあったが、それぞれの班に1.2名入っている。自発性を引き出す仕組みを作ったことで自発的に紙芝居をやりたい、ニンジンを持ちたいなど自分で選択していく。帰りの会で今日のクレームを互いに言い合う環境あり、いじめが起きにくいと思われる。児童館と学童について健常と支援児の摩擦はある。摩擦等があると家族がショックを受けてデイに行きたいとなることが多い。</p> <p><b>11月30日 方南学童クラブ (障害児在籍/2名)</b>          在籍の障害児は、済美養護学校の一年生が一人のみだったが、加配の先生が一人付いていた。基本的にその子が一人で遊んでいて先生が見守っているような状況。他の子と一緒に遊ぶという状況にな</p>			

かなかならない。こちらの学童の区域の小学校には支援級はないため、配慮が必要な児童は本児1名のみ。就学前の3月になって慌てて就学その他のことについて動き出していたとのこと。

### 12月7日放課後等デイサービス（まあぶる高井戸）

ボランティアさんが3名いて、それぞれ月2回程度来る。ボランティアさんが来ることで、外の風を入れている。知的障害児が多いが、肢体不自由児も2名、視覚障害児も3名いる。視覚障害の3名は重度なので個別対応。それぞれの特性、できることに合わせて、本人が楽しんで過ごせるよう工夫している。まあぶるが大事にしていることは、本人も母親も安心できる居場所を作る事。学校との連携は、済美養護学校は先生方が2年に一回程度見学に来てくれるが、支援級の先生方とはまったくくない。

### 12月20日放課後等デイサービス（カノン）

登録児童は40名。一日平均10名の利用で、月に280名程度が利用。

大事にしていることは、外出レクなどみんなでできる体験を重視している。社会の中でのルールが身につくよう、公共交通機関の利用、交通ルールを守る、買物体験などしてもらおう。協調性や社会性を伸ばしたい。親御さんも参加できるフェスティバルを実施した。来年度以降は地域とも交流したい。

### H30年1月19日 放課後等デイサービス情報交換会

デイサービスでの課題や困りごとについて話をした。今後の方針としては、幹事を決めて、支援学級・済美養護などと連携を取っていく。開催頻度としては、学期に1回として年3回。

### H30年2月8日 事例検討とまとめ、来年度の方針について

結論・残された課題など

#### 学童の課題

・重複障害は高円寺のみなので、合わなければ放課後等デイしか選べない。・医療ケアの受け入れができない。健常児と支援児の摩擦があるために、それを回避するために、放デイを選択することが多い。

#### 放課後等デイサービス情報交流会で出された課題

- ・複数のデイを利用している方の連携の取り方が難しい。
- ・スタッフの入れ替わりが激しく、育成が追い付かない。
- ・家族の見立てと施設側の見立てが違う場合の対応。 ・学校・行政との連携が取れない。

#### 事例・まとめ・振り返りからの課題

・相談支援についての理解が全体的に進んでいないこと。

来年度にむけて

- ・それぞれの連絡会などに入っていき、顔の見える関係になることで課題の抽出をおこなう。
- ・学童の先生のニーズを知る方法については、児童青少年課からあたっていく。
- ・学校の先生向けに放デイの説明会を開催してはどうか。
- ・学校・放デイ・学童のニーズを知り、その橋渡しをする。たとえば、学校公開のチラシなどをデイに行く際に持参して渡したり、放デイと学校の交流会なども開催を検討。
- ・学童・放デイの見学は継続して、課題の抽出をしていく。
- ・相談支援の役割の周知、使えるサービスの一覧や、事業所一覧などの書類を作成して、関わりのできたところに配る。（ミカン組のようなもの）